



浦和大里小学校だより

5月号 令和6年4月30日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



心に思いをはせて

校長 中野 緑

プールの工事が始まりました。「どんなプールができるのかな。」と、子どもたちがぴよんぴよん跳ねながら話しています。楽しみな室内プールではありますが、来年夏までを予定している工事の最中は囲いが設けられ、限られた校地での教育活動となります。その中でも充実した日々が送れるよう、皆で想像力を働かせて事前準備を進めるとともに、与えられた条件の中での最善の道を探っていきます。どうぞご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、5月1日は「さいたま市民の日」です。「自分の住むふるさとをより好きになってほしい」「魅力的なさいたま市をみんなの手でつくってほしい」という願いがこめられています。この浦和大里小周辺も、魅力にあふれています。

昨年度、3年生が総合的な学習で取り組んだ「街の推し」活動では、「推し」という視点で地域を眺めてみることで、これまで言葉にしてこなかった地域への前向きな思いが、たくさん表現されました。「暑いときに日陰をつくってくれるブロッコリーみたいな木」「生き物がたくさん集まる水路」「季節ごとにいろいろな花が楽しめる道」など、街をより好きになる新しい視点に満ちていました。言葉にして改めて分かることがあります。

かつて、道徳の授業で、いつも礼儀正しく大きな声であいさつをしている子どもに「いつも気持ちよいあいさつをしてくれるのはどうして？」と問うてみました。わたしは「あいさつをすると気持ちが通じ合って仲よくなれます」などという答えが返ってくることを期待していました。そこからあいさつする意義に思考を広げようと考えたのです。ところが、その子どもは、きっぱりと言いました。「今月はあいさつ月間だからです」。

この授業の後、むしろ小さな声であいさつをする子どもが気になりはじめました。行いだけ見たら、「もっと大きな声であいさつしなさい！」と言いたくなるでしょう。ところが、表情をみて、心に思いをはせると、ちょっとした微笑みに、「おはようございます。今日もよろしく」という心がみえてきました。「あいさつ月間だから」より、ずっと心が通ったあいさつだったことに気付くことができました。すると、自然に「今日も元気に来てくれてありがとう」という気持ちわいてくるのでした。本物のあいさつを交わすうち、その子どもも声がだんだん大きくなってきました。心を見ると分かってくる場合があります。「行いをみるか、心を見るかで、対応が変わる」ということを、学んだ出来事でした。

新しい学年がスタートして1か月がたちました。張り切って過ごした子どもの心を見ると、新しい環境に慣れるのに気を張って過ごした1か月だったかとも思います。どうぞゆったりと頑張りたたえ合う連休としてください。

*学校ホームページ「学校生活」では、浦和大里小の日々の様子を発信しています。どうぞご覧ください。